

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)		
所在地	〒021-0002 一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	令和2年7月22日	評価結果市町村受理日	令和2年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが、その人らしく笑顔ある生活が送れるような声掛けや関わり方を心掛けている。洗濯物たたみや食器洗いなどの家事やレクリエーションを通して、残存機能を維持していただけるよう対応している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、たんぼぼの丘とひまわりの丘の2棟がウッドデッキで繋がっており、相互に交流し連携が図られている。周辺には、民家や市の集会所、大型ショッピングセンターなどがあり、生活環境に恵まれている事業所である。職員は、「「つどい」運営理念」を基に、「ひまわり」職員目標として「皆さんの個性を大切に、四季折々の行事を一緒に楽しごします！」を掲げ、利用者がその人らしい生活が送れるよう、日々ケアを工夫し実践している。自治会に加入し、利用者と一緒に地域行事に参加している。事業所主催の行事には、避難訓練を始め、多くの地域の方々の強力が得られ、地域とは、日常的に交流している。法人本部は他県にあるが、医師や看護師が必要時には対応してくれることにより、利用者・家族の安心となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やリビングに理念を掲示し、職員が意識しながら、介護業務を行っている。	「つどい運営理念」を事務所とリビングに掲示し、パート職員も含め全員が、毎月の職員会議で唱和し意識付けしている。今年度は、感染症対策(新型コロナウイルス)で中止したが、毎年、年度当初に、法人代表から理念を踏まえた講話がある。職員は、「ひまわり」職員目標を定め、利用者個々の個性を尊重するケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の運動会へ参加したり、文化祭に作品を出品している。	地区自治会に加入し、地区の祭りや運動会に利用者と一緒に参加している。事業所主催の新緑食事会には、地域の方々も参加し利用者と交流している。例年民謡ボランティアの方々と一緒にカレーを作りふるまってるが、今年は、コロナ対応で、自治会の行事や事業所行事などと同様に中止となっている。そのような状況下で、区長が広報を毎回届けてくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に行っていることはない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動状況の報告を行い、参加者から意見や助言などをいただいている。	運営推進会議は、2ヵ月に1回開催し、地区長、市担当課職員、老人クラブ会長、民生委員の他、家族と利用者も参加している。利用者からは、コロナ対応での手洗いうがいの励行についての意見が述べられた。今年6月以降は、開催を見合わせ資料を送付し意見を伺っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者にも参加していただいている。また、必要に応じて連絡を取り合っている。	市担当課職員が運営推進会議の委員となっており、会議で活動報告等に関連し助言等を頂いている。市窓口にも、要介護認定申請書類や生活保護関連の届出等を持参し、指導や助言を頂いている。生活保護の担当者は、年に数回来所し利用者と面談している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。学習会を行い、理解に努めている。二カ月に一度の運営推進会議で委員会を開催し、状況を報告している。	身体拘束適正化委員会を設置し、運営推進会議で報告している。身体拘束についての外部研修や法人内の勉強会に参加し、身体拘束しないケアについて理解を深めている。職員会議の中でも「どういう時に身体拘束になるか」等をテーマに研修をしている。立ち上がり不安定な利用者(3名)に、掛け布団に鈴を付け(音色が異なる)、動きをすばやく察知し安全を確保している。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や研修会を通して、職員の理解に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を行い、職員の理解に努めている。成年後見人制度を実際に活用している方もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心掛けている。不安な点や疑問点などの有無を確認し、理解・納得した上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、特に意見が寄せられたことはなく、反映までに至っていない。	運営推進会議に、利用者が参加し報告を聴いている。家族とは、面会時や電話連絡した際に直接意見を聴いている。家族から、利用者を散歩に連れて行って欲しいと要望があり、対応に努めている。コロナ対応で、今年2月末から家族の面会を見合わせている。家族に、ひまわり・たんぼぼ各ホーム通信を毎月送付し、利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や職員間でのコミュニケーションの中で意見や提案を受け、検討している。	月1回の職員会議は全員参加が基本で、参加できなかった職員は会議録で内容を確認している。業務中や申し送り時等、随時意見を出し合い、業務改善に繋げている。申し送りノートには、気づいたとき自由に記載している。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や研修会への参加を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議の中で勉強会を行い、日々の仕事に活かせるよう知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会や講演会などへの参加を勧めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族様に状態を確認しながら、生活状況や症状の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや不安なことなどお話を伺い、信頼していただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様からお話を伺い、必要な支援を見極めている。場合によっては、他の事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて、洗濯物たたみやカーテンの開閉、食器洗いなどを職員と一緒にしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の状況を報告している。介護サービス計画の更新時には、ご家族からの要望などを伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生会などで、馴染みの場所に出掛け、思い出を振り返る場面を設けている。	利用者の馴染みの人や場所を把握し、ドライブや誕生会の個別での外出計画を立てている。以前は、友人が訪ねて来て外食している利用者もいた。病院受診の帰りに、馴染みの場所に寄り道することもある。中には、懐かしい巖美溪の郭公団子で、記憶をよみがえらせる利用者もいる。コロナ対応で通院以外の外出を控えており、楽しみの外食を出前に替えるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、コミュニケーションを円滑に取れるようテーブルの配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お会いした際には、近況を確認するように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を観察し、ご本人の望む暮らし方や暮らしへの思いをくみ取るよう努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得てケアに反映させている。	入居時に、利用者と家族から思いや意向を聴き取りしている。また、日々の生活の中で、声を掛け、言葉や表情から思いを把握しているが、言葉で伝えられない利用者は、表情や仕草から推し量っている。家族とは、面会できないため、電話での連絡になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺いながら、情報収集に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、記録に残し、現状の把握に努めている。定期的なアセスメントを行い、有する能力や課題、生活への思いについて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特変があった場合は、ケアカンファレンスを行い、毎月の棟会議やケアプラン作成にも意見やアイデアを反映させている。現状に即した介護計画を作成するため、ご家族の要望を伺い、訪問看護師からの指導や助言を反映させている。	毎日、利用者個々の介護計画チェック表に、実践状況を記入している。毎月のカンファレンスで担当職員の意見を聴きながら、アセスメントとモニタリングを繰り返し、6か月毎に計画作成担当者が介護計画を見直している。介護計画は、利用者や家族に説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、介護計画の見直しを行っている。また、申し送りノートを活用し、ケアカンファレンスにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物など、ご家族の希望に応じて、職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会や行事など、宅配サービスを利用したり、近隣のお店へお弁当を注文している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される方には、ご家族と連携しながら、受診できるよう支援している。	出来る限り、入居前のかかりつけ医を継続している。受診は職員が同行し、結果を家族に報告している。法人の看護師が定期的に健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来所し、状態報告や相談をしている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、医療機関やご家族と情報交換や相談を行いながら、円滑に進められるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合のホームの方針をお伝えし、本人やご家族の思いを伺っている。意向に沿うよう十分な話し合いを行っている。場合によっては、他事業所の紹介も視野に入れ、支援を行っている。	重度化した場合や終末期の対応は、入居時に利用者・家族に説明し、希望する方には同意書を頂いている。これまで二度の看取りを実施している。事業所で生活できなくなった場合は、系列の老人保健施設等を紹介している。職員は、看取りについて研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていないがマニュアルや資料で各自確認できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や勉強会を行い、実際の災害時に対応できるようにしている。	災害対策については、消防署立会い(1回)を含め年2回避難訓練を実施している。訓練時には、地域の方々も参加し、見守りをして頂いている。外出支援のドライブで車に乗り組むことも、利用者の避難訓練の一つとしている。災害に備えて、食糧や水等の備蓄をしている。	日常の暮らしの行為を避難訓練と位置づけ、利用者が自然な形で体得出来るよう工夫されている。夜間想定 of 避難訓練を実施しているが、今後は実際に暗さの体験はしていないことから、夜間の訓練を検討されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送りや毎月の会議で一人一人に合わせた対応を確認し合っている。	利用者へは、入居して間もないときは名字で声掛けしているが、慣れてくる頃には下の名前で呼びかけている。利用者から教わることもあり、人生の先輩として意識して関わっている。褒めると利用者はありがとうと喜んでくれる。利用者一人一人に合った対応を職員で話し合い、実践している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉選び・喋り方に気を付けて利用者様が意思表示・意思決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れに合わせてお声がけすることが多いがどのようにしたいか常に利用様に伺い、決めて頂けるようにお声がけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の寝ぐせ直しやひげそりは、お声がけや手伝って忘れずに行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の調理は職員が行うが食事前後の台拭きや下膳、食器洗いは可能な方をお願いしている。	食事は、副菜が法人本部からレトルトの状態で開催される。職員はご飯と味噌汁を作っている。利用者は、食材の準備を手伝ったり、後片付けやテーブル拭き、配膳を手伝っている。機能に合わせておかゆやミキサー食も提供している。月に1、2回、おやつを利用者と一緒に作り、年末年始には、年越しそばやお寿司など提供している。昨年は、温泉でのカラオケ大会と食事を楽しんだが、コロナ禍の今年は見合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分はチェック表を用意してチェックしている。呑み込みが悪い方は時間をかけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声がけをしながら口腔状態を確認して口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の希望や定期的に誘導しつつ自立に向けて支援している。	一人一人の排泄のサインを把握し、トイレに誘導している。布パンツで自立されている方もいる。リハビリパンツや尿取りパット等の介護用品の使用については、改善に向けて常に見直している。失敗等があった場合は、職員が静かにトイレに連れてゆき、周囲に気づかれないよう配慮している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳を飲んでいただく。水分を十分に飲んで頂くようにお声がけしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングを見ながら声がけをして入浴して頂く。	毎日入浴できるよう浴室の準備をしている。週2、3回入浴できている。毎日の入浴希望にも対応している。利用者が入浴を楽しめるよう、菖蒲湯や柚子湯は毎年実施しており、時に入浴剤を使い気分転換を図っている。入浴を嫌う方には、誘いの言葉を替えたり、時間を経てから再度声掛けする等、利用者が自然に入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣がある為、好きな所で休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数の職員で確認を行い、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を把握して行って頂くようにお声がけしている。気分転換に外に出て皆さんで談笑している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが流行している為、なかなか外出できずにいる。	近所を散歩したり、事業所のウッドデッキで外気浴をしている。例年、お花見や紅葉狩りなどの季節のドライブを楽しんでいたが、今年のお花見は、コロナ禍のため車中での見物に留めた。病院受診が個別の外出になっており、帰路、馴染みの場所に寄り道することもある。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルスの為、買い物には行けていない。本人の希望があれば職員のみで買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をしたり手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日に合わせて温度調整をしている。また、季節感のある飾りをしている。	日が差し込む明るいリビングには、テレビやソファ、食卓が配置されている。壁には、利用者手作りの花火や、魚釣りの貼り絵が飾られている。季節に合わせて作品を作り、先日までは、あじさいの貼り絵を飾っていた。共用の場所は、次亜塩素酸ナトリウムで清掃し、清潔な環境の維持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	晴れた日はウッドデッキに出たり、入居者の皆さんで体操をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら家具を置いている。	居室には、押入れ、ベッド、エアコン、蓄熱暖房機、コルクボードが備え付けてある。持ち込みのダンス等は、家族と相談し、居心地良く過ごせるよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	覚えやすいように居室の入り口に目印になるものを付けている。トイレと分かるように大きく表示している。		